

# 障害者雇用の場の確保を いかに推進するのか

矢加部 茂晴 議員

**市民生活部長** 各課でいろいろなアンケート調査を行うが、その時には現在、庁内の臨時職員も集めて封筒入れをやっている状態だ。

その業務を障害者の方々や団体の仕事にできないかと考えている。

## 総合案内の窓口 障害者の皆さんの 雇用を

**問** 第四次総合計画の障害者施策の中で成果指標の一つに、障害児・者と交流している市民の割合がある。

この成果の状況と分析では、啓発事業等を通じ、市民の

障害者への理解を広めているとあるが、平成18年度は9・4%、19年度は9・1%と横ばいの状況である。

筑後市としてもこれまでに啓発事業をやり、障害者の雇用を訴えてきたが、障害者の皆さんの働く姿を見ていただくことでお互いの理解も深まるのではないかと、市役所の総合案内窓口

に啓発事業をやり、障害者の雇用を訴えてきたが、障害者の皆さんの働く姿を見ていただくことでお互いの理解も深まるのではないかと、市役所の総合案内窓口

に啓発事業をやり、障害者の雇用を訴えてきたが、障害者の皆さんの働く姿を見ていただくことでお互いの理解も深まるのではないかと、市役所の総合案内窓口

を提案したい。

**市民生活部長** 今まで職員研修という位置づけで総合案内がされてきた。総合案内も大きな仕事である。障害者担当部署としては前向きに検討していきたい。

**問** 市長がローカルマニフェストで示している、障害者の自立支援のために、公的業務を含めた就労の場の確保をいかに推進するのか。

**市長** 窓ヶ原体育館の管理や市の公園清掃、市立病院駐車場管理等を障害者団体に委託して障害者雇用の場を広げている。今後は、庁内の業務を見直す中で事務や作業の内容を検討し、障害者団体に委託できる業務はないかを含めて、就労の場の拡大を図っていききたい。

**問** 担当部署ではどのような業務を考えているのか。



総合案内窓口

# 今こそ、船小屋温泉郷の再生を

大藪 健介 議員

**問** 商工会議所は船小屋温泉再生プロジェクト事業に取り組んでいる。療養型温泉施設として全国に売り出すため、炭酸ガスが抜けることなく加温する実験温泉施設「すずめ湯」ができた。市の今後の取り組みは。

**市長** 新幹線筑後船小屋駅開業を見据えた、意義ある事業だと評価している。今後、会議所、船小屋温泉組合など関係団体と協議し、筑後市における元気づくりの発信源につなげたい。

**問** 市長、商工観光課長も実験温泉施設に体験入浴されたが、その感想は。

**市長** 本当に立派なお湯で長湯温泉より色が濃く、鉄分のおいしがし、炭酸ガスが自然に泡立ってくる立派な温泉だ。

**商工観光課長** 39度と言うとぬる目の湯と思うが、しばらくすると汗がどんどん出て来て、見た目も体に効きそうな赤茶色で、将来、療養型の温泉として非常に

期待出来ると感じた。

**問** 市で温泉施設建設を。

**市長** 貴重な源泉であるので、各関係機関、会議所、地元などと十分協議をし、今後検討する。

## 地の利を生かし、 定住人口増加を

**問** 将来的に人口減少が叫ばれる中で、新幹線開業を見据えて南西部南東部を定

住促進地域へ。

**市長** 土地利用方針で、筑後船小屋駅周辺を広域交流拠点及び観光レクリエーション拠点と位置づけ、定住促進地域とし、さらなる定住促進を図る。

**問** 新幹線が開通すれば、博多まで約20分で行く。地の利を生かした政策を。

**市長** 十分検討し、人口をいかに増やすか整理する。



実験温泉施設「すずめ湯」オープン